
■ 2022年度前期科目《ジェンダー論入門》 ■

「「闇」から見るジェンダー —— 森崎和江『まっくら』を読む」

担当教員：村上 潔

第4回（2022/05/13）文書資料

●● 導入 ●●

【このコーナーでは、各回、授業内容と直接関係はないが——間接的には関係する——、担当教員が現時点で注目している情報を随時ピックアップして掲載していきます。授業内で言及する場合がありますが、言及しない場合もあります。取り上げる内容に、特に統一性はありません。各自、興味・関心と必要に応じて参考にしてください。もちろん読み飛ばしても問題ありません。☆このコーナーの内容は定期試験の出題範囲には入りません。☆】

■ 授業の時代背景を理解するのに有用な漫画作品

◆ 長谷川町子『サザエさん』（1946～1974）

◇ コトバンク：<https://kotobank.jp/word/%E3%82%B5%E3%82%B6%E3%82%A8%E3%81%95%E3%82%93-191309>

◇ ソノラマプラス（試し読み）：<http://sonorama.asahi.com/series/post-35.html>

◇ 「長谷川町子生誕100年記念！幻のオリジナル版『サザエさん』（全68巻）を27年ぶりに復刊！」（2020年2月20日／朝日新聞出版プレスリリース）<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000910.000004702.html>

◆ 長谷川町子『いじわるばあさん』（1966～1971）

◇ コトバンク：<https://kotobank.jp/word/%E3%81%84%E3%81%98%E3%82%8F%E3%82%8B%E3%81%B0%E3%81%82%E3%81%95%E3%82%93-694433>

◇ e-hon（試し読み）：<http://e-hon.tameshiyo.me/9784022589316>

◇ 「長谷川町子「いじわるばあさん」姉妹社版が40年ぶりに復刊」（2013年12月1日／コミックナタリー編集部）<https://natalie.mu/comic/news/104758>

◆ 著作の復刻版一覧

◇ “長谷川 町子”に関連する商品一覧（honto：発売日の新しい順）

https://honto.jp/netstore/search_09-saledate.html?athid=1000088209&bookDataFlg=true&eBookDataFlg=true&tbty=1

◆ 特集記事

◇ 《[連載] サザエさんをさがして》（『朝日新聞デジタル』）

<https://www.asahi.com/rensai/list.html?id=251>

◆長谷川町子と炭鉱との関係

◇「サザエさんと炭鉱」（2016年11月14日／田川市石炭・歴史博物館のブログ）
<https://blog.goo.ne.jp/tchm-sekitan/e/6afb187f8be3643eb4f5efa121a12572>

◆長谷川町子美術館

<https://www.hasegawamachiko.jp>

■版画

◆企画

◇《 [緊急企画] 不和のアート——芸術と民主主義 [The Arts of Dissent: Art and Democracy] 》

| 開催期間：2022年5月1日（日）～5月10日（火）

| 会場：東京藝術大学上野校地 大学美術館 陳列館1階

<http://ga.geidai.ac.jp/2022/04/29/artsofdissent/>

—“【趣旨】 コロナ禍において世界中で政治的な緊張は今や高まっており、ナショナリズムや自民族主義、レイシズムや排外主義が広がる一方で、権威主義的国家の台頭、暴力による政治的弾圧、少数民族の迫害、原理主義の拡大が進んでいます。| この時代にアートは何ができるのでしょうか。| この緊急企画は、政治、特に民主主義と芸術との関係を議論する一時的な場を作ろうというものです。[...] 会期を通じて、アジアを中心に起こっている政治的な問題、民主主義とアートの関係、そして現在進行中のロシアによるウクライナ侵略の問題を、展示やワークショップ、そしてディスカッションを通じて考えます。”

◆オンライン記事

◇成田圭祐（聞き手：毛利嘉孝） 2022 「 [特集巻頭インタビュー] 東アジア・東南アジアのアート、アクティヴィズム、DIY」, 『Relations』9(May 2022),
(<https://relations-tokyo.com/2022/05/03/keisuke-narita/>)

—“【Exordium】今回「東アジア・東南アジアのアート、アクティヴィズム、DIY」というテーマで特集を組むにあたり、最初に頭に浮かんだのは、新宿のインフォショップIRAだった。Irregular Rhythm Asylumという奇妙な名前をもつIRAは、2000年代以降の東京のアクティヴィズム、より正確にはアナキズムとパンクカルチャー、そしてDIY的な政治の重要なハブの一つである。”

| 【構成】「コロナ禍におけるインフォショップの現状」・「コロナ禍においてトランスナショナルなDIY的なアクティヴィストネットワークはどのように変化したのか？」・「香港における新しい自律空間の動き」・「コロナ禍における東南アジア」・「オルタナティブ・スペースのしたたかさ」・「版画が可視化したアジアのネットワーク」・「変化しつつある中国の若者たち」・「DIY文化、パンク、そしてフェミニズム」・「アジアにおけるもうひとつのパンク文化」・「日本におけるアナキズムはどのように受容されるのか？」・「版画コレクティブの可能性」・「インタビューを終え

て」

—【引用】“ヤンチャな男の武勇伝が歴史になるみたいな、そういうのはもうちょっと勘弁ですよね。最近野中モモさんの翻訳で『女パンクの逆襲』っていう本が出ました。そういう歴史がちゃんと今に活かされていないと、パンク自体も消滅してもしようがない。マッチョな歴史だけだったらもう誰も関わりたくないし、ただただ高齢化が進むだけでしょう。いろんな人たちに開かれている文化、表現方法ならば、声の大きい男性以外の人たちの功績というか、多様な声が実際にあるということを示す必要がありますよね。”／“「NO LIMIT 東京自治区」って東京のオルタナティブ・スペース共同でやったイベントで、IRAで木版画のワークショップをやりました。その時に参加してくれた台湾・香港・中国の人たちがめちゃくちゃ面白がって、それをきっかけに自分たちの地元でコレクティブを結成したんですよ。|彼らは直感で「これ自分たちのコミュニティに活かせる技術なんじゃないか」って思ったらしい。実際、今でもすごく活発に活動している。しかもA3BCよりもアクティブで、移民労働者の支援の現場で木版画ワークショップやったりとか、政治的な活動と木版画を結び付けながらずっと活動を拡大しています。こうした広がりも面白いですね。”

◇狩野愛 2022 「東南アジアから東アジアに伝播するDIY文化圏の木版画アート・コレクティブの現在」, 『Relations』9(May 2022), (<https://relations-tokyo.com/2022/04/27/ai-kano/>)

—“【引用】DIY文化の影響を受けた木版画アート・コレクティブは、現在わかっているだけでもインドネシア、マレーシア、フィリピン、香港、台湾、中国、韓国、日本の都市や郊外に存在する。各拠点でグローバル資本主義が絡む環境破壊や再開発に対する抵抗や、ジェンダーや移民などマイノリティのアドボカシーなどの課題にアクションをしている。90年代末に、インドネシアのタリン・パディ (Taring Padi, 1998、ジョグジャカルタ) とパンク・バンドのマージナル (Marjinal, 1997、ジャカルタ) が長期に渡るスハルト独裁政権の崩壊と民主化の時期にパンクバンドを結成し音楽と木版画をメディアにした活動で人びとを勇気づけてきた。”

■ 企画

◆ 環境問題と社会運動の関係

◇ 《Climate and the Social Question: Organizational Opportunities and Obstacles》

June 15, 23, 29 + July 6, 2022 by Common Ecologies

Course location: Zoom / Four 2-hour sessions

<http://commonecologies.net/courses/climate-and-the-social-question/>

—“This course aims to highlight organizational practices, concepts, and strategies that frontline emancipatory struggles are developing to move beyond the dichotomy between just transition and climate justice. It asks how organizations fighting for social causes tackle ecological objectives, and

organizations fighting for ecological objectives tackle social problems. And it asks how such efforts are not simply promoting a post-carbon transition, but attempting to radically transform the dominant mode of living away from one premised on endless consumption and growth.”

◆環境レイシズム

◇《How Do We Resist Environmental Racism?》

May 24, 2022 by gal-dem

<https://www.eventbrite.co.uk/e/how-do-we-resist-environmental-racism-tickets-335401493897>

—“What is environmental racism and how does it show up in our communities? Why do we urgently need to resist it to ensure a just fight against the climate crisis? How are anti-racism movements and environmentalism linked? And most importantly, how can organise in our communities around both issues at the same time?”

■新刊

◆茨木のり子

◇河出書房新社編集部編 20220513 『[文藝別冊] [増補新版] 茨木のり子——「言の葉」のいのり』, 河出書房新社 (KAWADEムック)

<https://www.kawade.co.jp/np/isbn/9784309980416/>

■記事

◆〈ブラックパンサー党〉／「アクティヴィスト・マザリング」／再生産労働

◇Cope, Suzanne, 2022, "Breakfast with the Panthers", Aeon Essays, May 10, 2022, (<https://aeon.co/essays/the-black-panthers-fed-more-hungry-kids-than-the-state-of-california>).

—“【Caption】 It wasn’t all young men and guns: the Black Panther Party’s programs fed more hungry kids than the state of California”／“The historian Françoise N Hamlin of Brown University has used the term ‘activist mothering’ to help understand both the work that the women Panthers were doing — and as a reason why their leadership and accomplishments have escaped due recognition.”／“The Panther women took on leadership roles in realms where they exert authority and expertise, and continued to expand the scope and influence of their work and voice within their community and beyond. But women doing ‘women’s work’ was often taken for granted, and its legacies went uncelebrated.”

■映画

◆『にあんちゃん』（1959）詳細情報

◇“京都文化博物館フィルムシアター、鈴木敏夫が選ぶ31作品。12日と15日は『にあんちゃん』（1959）。「ファイトのある子供をテーマにした作品を作りたい」と、佐賀県の炭坑地帯に住む十歳の在日朝鮮人少女の日記を元に映画化。どん底の貧窮生活に喘ぎながらも、けなげに、素直に、そしてヴァイタリティを漲らせながら生きる四人兄妹を描く。〔以下詳細情報〕”（2022/05/12 京都文化博物館 映像情報室）

<https://www.facebook.com/KyotoFilmArchive/posts/419866203476639>

~~~~ ↑以上：導入／↓以下：本論 ~~~~

●● 第4回：「『まっくら』を理解するために（3）——無名の女性たちの“ことば”を残す」 [2022/05/13] ●●

## ■前回補足

◆「歴史」として残す／残さないの価値判断（国家的・行政的・学問的な視点）は、その国／地域で日々生活する一人一人がもつ利害や生活実感と直接重なるわけではない。必然的にズレやバッティングが生じる。

◇「歴史」は「権力的」でありかつ「政治的」であるということ

| ということは、残らない領域を「歴史」としていくこと——「女性史」のように——もまた、「政治的」な実践であるということ。

◆「歴史」として残されない対象：追加で

◇ホームレス／セックスワーカー／移民

| 統計としては残される：治安対策（リスク管理）の目的で

| 捕捉・追跡が困難：全体の一部しかわからない

| 差別の存在：ゆえに濃密な・深いアプローチは困難

| 「救済」目的／「課題解決」のためのアプローチ：あらかじめ当事者像を規定している——被害者性のみを焦点化している——という限界性

↳ ☆当事者のありのままの実態・利害・感情を当事者目線で記録しえた成果は極少☆

◇「自然」／「環境」（観光地的な場所を除く：一般的な条件にあるもの）

| 環境破壊・公害問題が起こったときにだけ残される：——がそれでも肝心な領域は隠蔽され被害は矮小化される（→もう「終わった問題」として片づけられる）

| そこにあって当然のもので+経済的な観点からはいくらでも「開発」し「接收」できると見なされているもの

☆ = 女性の（家内）労働力／身体性と同様の位置づけ☆

↳ 「自然」について親密性をもって（我がこととして）記述する（／できる）主体は女

性の表現者：石牟礼道子・森崎和江はその代表

↳『まっくら』は【女性坑夫の労働・生活】と【自然環境／天然資源】の両方をあわせて記録して+描いている——ゆえにとりわけ貴重

\*石牟礼道子：<http://www.arsvi.com/w/im12.htm>

\*森崎和江：<http://www.arsvi.com/w/mk08.htm>

#### ◆炭鉱労働に関する「歴史」

◇石炭産業／炭鉱の経営に関する資料：残される

◇炭鉱労働者の労働組合に関する資料：残される

——が——

◇零細炭鉱の労働者たちの労働実態：記録されても残らない

◇女性坑夫たちの労働実態：記録されない

#### ◆女性坑夫・女性ホームレス

◇はじめから存在しない（はずの）ものとされている

◇重層的に不可視化された存在

◇言葉を与えられない存在

◇→☆では彼女らが本来もっていた／いる“ことば”をどう見出し→残すか☆

#### ■無名の女性たちの“ことば”

##### ◆ホームレス女性の日記

◇中村真暁 2022 「亡きホームレス女性、ノートに残した暮らしと思い——「美しい夕陽」「今日も書けた、読めた、歩けた…」」, 『東京新聞』（社会）2022年4月3日 (<https://www.tokyo-np.co.jp/article/169413>)

——【Caption】9年前の年末、東京都内のとある公園でホームレスの女性が亡くなった。ブルーシートのテントに残されていたのは30冊以上のノート。極貧下、理不尽な暴力にさらされながらも、自分らしく生きた日々が記録されていた。有志の女性たちが文章を書き起こし、出版を目指している。”／”【引用】小山さんの遺品を整理した野宿者仲間のいちむらみさこさんは「1人の野宿女性の暮らしや思いの貴重な記録」と感じ、数人でノートの内容を一部書き起こした。小山さんの1周忌に合わせて開いた追悼展で紹介すると、共感の輪が広がった。”／”【引用】別のメンバーは「音やにおいまでもが詰め込まれ、映像を見るようでもある。ノートを通じ、小山さんとの対話に夢中になった」。メンバーたちはノートに登場する場所を訪ね、朗読しながら小山さんの心境を追体験した。”

【～～授業では全文（リンク先）読み上げ～～】

##### ◆本来的には見つけられない“ことば”

◇身近な（同じ立場の）女性に見つけられ→「保護」された

| そうでなければ (= 価値を見出さない人が先に見つけていれば) 無条件に捨てられていたはずのもの

◇ 「保護」した女性の周りの女性たちがそれを「共有」する

| ただ記録された文字を読むだけにとどまらず実際に自分たちの身体を当事者の記録に重ね合わせる (= 「追体験」)

└ 文字の奥にある“ことば”を (全身で) 「聞く」

└ そのうえで“ことば”を改めて書き起こす = よみがえらせる

◇ DVの経験: 「彼女」と「わたし」 + そして無数のまだ見ぬ「彼女たち」を結び合わせる

| 痛み・(心身の) 傷: 他者と自分をつなぐ媒介

◇ より広く当事者の“ことば” = 物語を「共有」していくために活動を展開

| 「慰め」・生きる「希望」を届ける

---